



第2号
 (発行所)
 真宗大谷派
 松岡山 廣讚寺
 中村区城屋敷町3-30
 TEL (052) 411-5301
 FAX (052) 411-5341

正信偈 天親章に

遊煩惱林現神通

入生死菌示應化

高らかに念仏を

仏の呼び声に 應^{こた}えましょう

あちらからも 南無阿弥陀仏

こちらからも 南無阿弥陀仏

上からも 南無阿弥陀仏

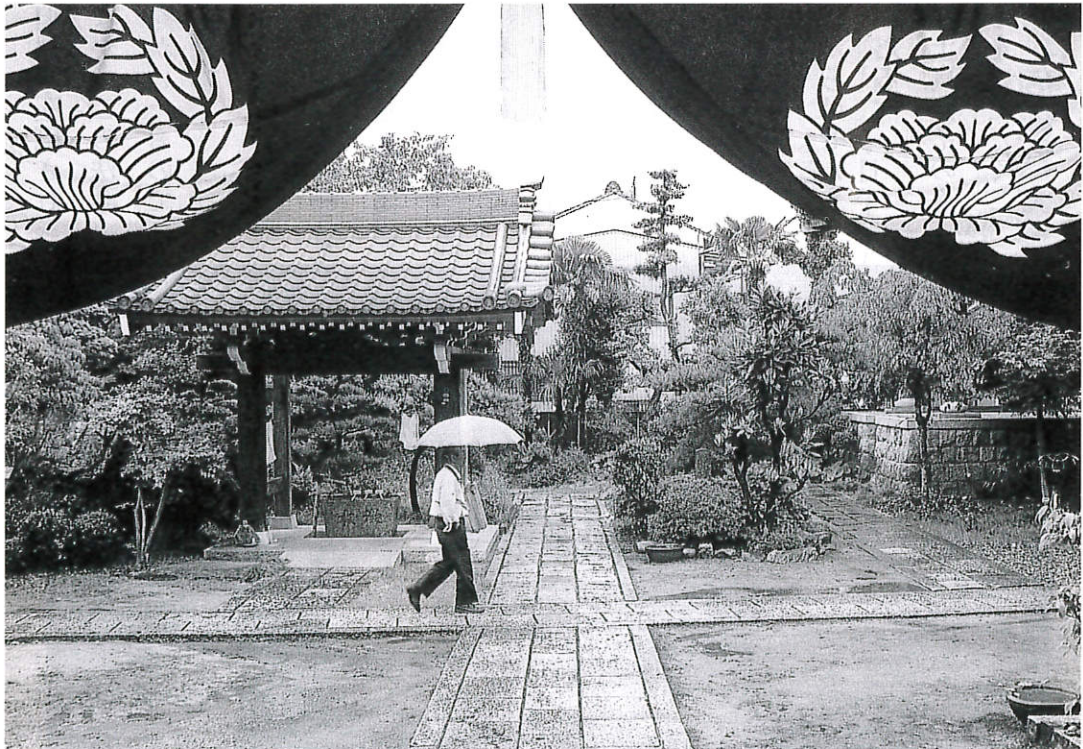
下からも 南無阿弥陀仏

人が 命を全うできるように

世界の明日を

南無阿弥陀仏 南無阿弥陀仏

しましう



「聖人のおことば」

獲得名号自然法爾御書
(高田法宝留影による)

「ツネニ自然ヲサタセハ、義ナキヲ義トストイフコトハ、ナホ義ノアルニナルベシ。コレハ仏智ノ不思議ニテアルナリ」この語は時に聖人八十六才。高田第三世を継がれた三十三才の若き顯智上人が上洛した折、善法坊僧都御坊にて口授された法語である。

上洛後の聖人の生活は関東の弟子達の浄財に負うところであつたといわれる。この日もなにがしの物品を携えて上洛した顯智上人をどれほど喜ばれたことかと思う。

関東門徒のまとめ役として自他ともに認められていた若き顯智上人は、この日も多くの質問を出したと思う。師弟の屈託のないやりとりのゆきつくところがこの法話だつたと思う。あれこれと理屈っぽい顯智上人の念仏を「若いなー 若者だなー 私もこんな頃があつた」と聖人は法然門下生であつた頃の若き自分の姿を今の顯智上人に見出された事であろう。

はたまた顯智上人は、この老念仏者の信念に接しその

迫力に圧倒されながらこの法話を聞いたものである。

私達は阿難を通して釋迦如来の大經意を知ることができ

る。私達は今ここに顯智上人を通して宗祖の

「南無阿弥陀、たのませたまひてむかへむと

はからはせたまひたる」

浄土真宗そのものをいただくことになる。



銘花

鳥森町の椋山清寿園さんから次のような電話を受ける。

「市公報によると、そちらの近くにY宅がありますか。

そちらに「御殿椿」なる銘木があつて今年も純白の花をつけたとか。記事の内容から察するに我が家にも同類がある。早速おいでになりませんか。新茶も入ったことですので」

その日の午後、伺つて三枝ほど手折つてその足でY宅に参上。若先生と御母堂さんと三人で品評する。

若先生「まちがいなし、御殿椿です。どれほどの幹

ですか？」

「小学生の腕ほどですよ」

若先生「それくらいのがもう一株、有名な宮崎宗匠

家にもありますよ」

御殿椿三本の所在がわかった。Y家のものが本歌である。見るからに椿としての大木である。これが知りたかった。

深い深い純白に暮色がせまる頃、帰途についた。

(御殿椿一名 大冠城という 本丸御殿正面にあり)

同朋バスツアー

——別院めぐりに参加して——

四月二十日午前八時、農協前出発。総員四十五名。

行程表によると、東名阪↓新名神↓土山↓栗東↓「京都東」着は午前十時、夢のごとし。スピードスピード現代版旅行、かくのごとし。

まずは見学の一つ、赤野井別院大恩寺である。本堂前の松の大木をカメラに納める。根元から五本に分立する珍木である。

次の見学は聖人草庵で、門徒にとってひとしお懐かしい岡崎別院である。伝説の八房の梅を見る。チラシによれば「いのちの花」とある。ひたすら念仏の白道を求められた宗祖のお姿を一輪の白花によせたのであろうか。

智積院での昼食。湖畔でのお土産を求めて予定通りに帰宅した。

(秋田都三)



本澄寺 明仁師

表白

本もここに檀信徒一同
力を合せ
復興永代聖を
つとめることになりしを
それ由未を申し上げますと
戦争で焼失した本堂の
再建の議が持ち上つたハ
昭和十九年(一九四四年)に
そくて十等とつ永年書を
役員一同苦勞に苦勞を
重ね合議すること百三由
縁故をたより資金の調達
に東奔西走すると五年
とやと工事に着工し
昭和十九年十一月に
完成をみることにし
それ内 四百人の方々から
尊いあつた志をえた
のでござります
この御恩に広讚寺さま
終生わすはらうことば
せめてもの感謝の
あかしとして
安永五月五日のくま日に
先入りのび
念仏三昧の一日を過ぎさせ
つたことになりしを
このおかげで復興永代聖を
執行する目的でありませ
ることに役員一同
奉詔の皆々様ととも
に(合掌)
あつたことば
役員一同

拝啓 新緑のみぎり本日はお招きに与り大
変丁寧におつとめ下さり御大儀様でした。
いつも廣讚寺様では勉強させていただいて
おります。今回の御門徒による絵解きも素
晴らしく感動しました。
御遠忌もすぐですがお体大切になさって下
さい。先ずは御禮まで

合掌

◎復興永代経 志納者一三〇名 雨天にもめげず
執行出来てよろこんでいます

◎同朋旅行も楽しく終えてよかつたと思ひます

六月予定

◎同朋例会・二十八日講・女人講それぞれ案内致
しますから参加して下さい

◎若院 若坊守ともに頑張ります 皆様よろしく